

住民で学校跡地活用検討



アドバイザーの山本さん(右)から、跡地活用の事例を聞く住民ら＝篠山市波賀野で



跡地活用について熱心に話し合う住民ら

古市で「夢会議」発足

産高丹南校 アドバイザー迎え

古市地区まちづくり協議会(中西肇会長)は、同協議会役員と地域の有志で構成する「ふるいち夢会議」(23人)を立ち上げ、来春閉校になる篠山産業高校丹南校(南矢代)の跡地活用を含めた古市地区の活性化策を話し合っている。来年3月までに自立計画書を作成し、市へ提出する。(太治庄三)

9月に旧雲部小を視察

同会議発足のきっかけが、毎月会合を開き、は、昨年7月に古市小学校1950年度卒業生が、昨年12月、「もっと多開いた同窓会。宴席でくの声の聞こえ」と同「閉校後の丹南校の跡地活用を考えた」と。頼。カフェやアトリエな話を持ち上がった。以として活用されている。旧雲部小学校の跡地活用

などをサポートした元兵庫丹波の森協会のまちづくり主任研究員で、現在、NPO法人「千里・住まいるの学校」事務局長の山本茂さん(豊中市)をアドバイザーに迎え、昨年度末までに4回、夢

会議を開いてきた。

今月7日、古市コミュニティ消防センターで開かれた今年度最初の夢会議には約20人が出席し、昨年度に意見を出し合った▽古市地区の良さと、▽古市地区の課題、▽丹南校跡地の活用方法と、古市駅周辺や地区全域の活性化案などを振り返り、まちづくりの方向性を探った。

篠山の農業考える

県農業大学校同窓会
意見発表や基調講演

兵庫県立農業大学校同窓会「鶏梨会」の篠山支部がこのほど、ユニティピアささやまで「篠山農業の明日を考える会」を開いた。会員約30人が参加。会員による意見発表や基調講演などを通じ

て、篠山の農業のあり方を考え、親睦を深めた。堀江滋雄さん(小立)が「私の想う篠山農業の新たな道」をテーマに発表。篠山の農業の課題として、人口減少や農地の荒廃、集落機能のせい弱

化、農業外所得の減少という、「人」「農地」「むら」「農家経済」の4つの空洞化を挙げ、「大規模経営体の依存は集落を衰退させる」と持論を展開。ドイツに習う家族経営や、スイスに習う農家民宿、都市住民などを生かした「農業人材派遣バンク」などによる農業創生を提案。そのために、「三宮金次郎のような変革する力と将来ビジョンが描ける優れたリーダー



が必要」とした。また、栗野勝浩さん(前授業、水田泥んこ遊びの営と地域での役割)と題して発表。村雲小学校の活動の意義に

り返った。まちづくりの方向性として、丹南校の跡地をふれあいと特産品づくりの拠点とし、▽カフェ▽アトリエ▽子育て支援の場(保育所、学童保育)▽高齢者の交流と保健・介護の場▽スポーツ・レクリエーションの場▽季節のイベントの開催会場など、前回参加者から挙げた声を集約して活用案として紹介。また、古市駅周辺を地区のシンボルゾーンとして捉え、▽

9月生まれのお子さんの写真を募集します

9月生まれの0-5歳のお子さんの写真を募集します。顔写真と、30字以内のひとことメッセージを添えてお送りください。お子さんのお名前(ふりがな)、生年月日、ご住所、保護者の方のお名前、ご連絡先をお書きください。応募はメール(tanba@tanba.jp)または郵送で。あて先は「〒669-3309丹波新聞社『ことも写真』係」。メールには必ず件名を入れて下さい。8月28日締め切り(必着)。9月中の掲載予定です。編集部担当・古西(0795・72・0531)

会員募集中

詳細はP.6までお尋ね下さい

ピュアスポーツ相模

TEL 0795-73-0102

毎月購読料1,255円(税込)

毎週日曜日・木曜日発行

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)

毎月購読料1,255円(税込)